

ふれあい
さいせい

発行

済生会西条病院

2005年初夏号 第28号

西条市朔日市269-1

TEL(0897)55-5100



4月29日に当院内で行われた大規模災害におけるトリアージ訓練の様子

院長を退任して

センター長 常光謙輔

事務長に就任して

事務長 戸田幸男

愛媛県医療功労賞を受賞

センター長 常光謙輔

部署紹介 内科

副院長 岡田真一

済生会のニューフェイス紹介

トリアージ訓練の実施

総務課長 矢野泰利

第1回クリニカルパス大会

第2回院内学会 開催

看護部長 大仲道子

委員会紹介

接遇委員会

新年度を迎えて

院長 黒河達雄

院長
黒河達雄

4月1日付けで、院長を拝命致しました。常光センター長が、長い年月心血を注いで作り上げたこの病院は、いまや西条市の中でも非常にレベルの高い医療を提供できる施設となりました。相変わらずの逆風の中、病院を運営してゆくことは大変ですが、また同時に大きな可能性もある病院ですので夢を実現させる楽しみもあります。職員のみなさまどうかよろしくお願いいたします。

4月8日、名誉総裁故高松宮妃殿下のお参りのため、高松宮邸内に入ることが出来ました。満開の桜の花を見ながら平成5年に今治で全国大会が開催されたとき、2日間お伴をさせていただいたことを思い出しました。宮邸での最初で最後のお花見をゆっくり楽しむことが出来て、良い思い出になりました。

今年度は、いよいよ8月に病院医療機能評価の再受審があります。検討会や委員会は開催されていますが、その記録を残さないとしたことにならないのでそのファイル作りをよろしくお願い致します。

東南海地震(南海トラフ)が30年以内に起きる可能性は、高知沖で50%だそうです。津波は高知県側を襲い、愛媛県は震度6以上の地域に入り、土砂災害と古い家屋の倒壊・全壊が起これ、その下敷きとなって住民の多くが被害に遭うだろうとの予測です。行政に任せてないで自分達で出来る防災対策を立てておきましょう。

最近、接遇が少し良くなったと聞き、うれしく思います。笑顔で医療に全力を!



院長
常光謙輔

院長を退任して

センター長 常光謙輔

3月31日をもって25年間勤めた院長を退任いたしました。振り返ってみれば大変長かったようでもあり、あっという間だったような気もする25年間でした。

昭和55年(1980年)4月に当院に赴任して来ましたが、病棟などかなり老朽化しており、また、駐車場は十数台の車しか置けないような狭い病院でした。スタッフは外科医師4名、内科医師1名の外科優勢の変則的な病院でしたが、その当時外科医師が4人もいる病院は市内にはなかったもので、救急車はよく来ていました。私の入った官舎の住所が西条市大町596-3(ご苦労さん)であったこと

もあり、ここで苦労をしようと腹を括りました。

なんといっても一番苦労したのは、病院の移転・新築ですが、当時は移転・増床・増科など全てに医師会の同意がないとできない仕組みでした。「われらは済生会がよくなるのは好まんのじゃ」と言われる逆風の中で自分なりによくやって来たと思います。やろうと思いつつまだできていないことがいろいろありますが、大体70%はできたのではないかと考えております。

院長退任後も名誉院長・センター長・いしづち苑苑長として残ります。全国済生会の院長会に出なくてよくなったので、出張の回数は年間40回から37回に減りますが、従来の病院の仕事のほかにいしづち苑の仕事が増えましたので、今までよりかえって忙しくなった感じです。体力・気力の続く間は頑張りますので、従来通りご厚誼をお願い申し上げます。



事務長
戸田幸男

事務長に就任して

事務長 戸田幸男

明治44年の済生勅語により創設された恩賜財団済生会の崇高な趣旨と90余年に亘る歴史の重さを受け止めております。併せて、当西条病院の発足から約半世紀を経た今日、救療済生の精神に基づき、地域の人々に温かみのある保健、医療、福祉を提供し、地域の基幹病院として、役割を果たし発展を続けておりますことは、諸先生はじめ職員の皆さんの平素のご尽力の賜物と思えます。

今や世界に比類のない速度で高齢化社会が進展するなか、ますます保健、医療、福祉の重要性が高まり、地域における当病院の施設は必要不可欠の状況にあると思われまふ。

この度の就任にあたり、事業指針であります当病院の運営の理念と基本方針を常に自覚し、西条市区の中核的公的医療機関の組織の一員としての誇りを持ち、当病院の発展のため、微力な身であります。職責を努めて参りたいと考えております。

本年度は、多くの重要案件の円滑な推進が課題であります。職員一体となって推進して参りたいと考えておりますので、職員の皆様のご指導、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

第1回クリニカルパス大会 第2回院内学会が開催されました

看護部長 大仲 道子

平成17年4月23日(土)午前中は第1回クリニカルパス大会、午後は第2回院内学会が全職員参加のもと西条市総合文化会館にて行われました。クリニカルパスは入院中の標準的な経過を説明するための「入院治療計画」で、病気毎に治療や検査、食事、生活等を時系列で表しています。毎月クリニカルパス委員会で検討し作成された「胆嚢摘出術」「人工骨頭置換術」のクリニカルパスについて各部署でさらに分析した内容を発表し意見交換が活発に交わされました。午後は、院内における種々の活動、取り組み、検討・改善した事項14題と、委員会活動のアンケート報告など3題の発表がありました。最後にJPTEC(病院前における外傷評価と処置)について石井副院長より説明があり、続いて行われた西条市消防救急隊員との合同の演技では、会場内が爆笑に包まれましたが救命処置の大切さを各自改めて感じたようでした。当院の職員の医療に取り組む姿勢や、一致団結のパワーを感じました。次回も質の高いクリニカルパス大会・院内学会にしたいと思います。

平成17年6月25日(土)第3回愛媛クリニカルパス大会が西条市総合文化会館で開催されます。メインテーマ「当院のクリニカルパスはここまで進んだ～工夫したこととこれからの問題点～」です。特別講演は近森病院 脳神経外科部長 高橋 潔先生と外来総括看護師長 久保田聰美先生の講演を予定しております。当院が世話人当番施設となっておりますので職員の一致団結パワーで臨みたいと思います。



委員会紹介

接 遇 改 善 委 員 会

昨年3月に第1回委員会を立ち上げて早一年が過ぎました。最初のアンケートでは接遇という言葉を知らない職員がいたり、医療はサービスという考え方に最初のうちは少なからず抵抗感があったようです。まず月間目標として言葉、電話、身だしなみ、表情、動作、心づかいについて細かく実例をあげて検討し各部署に持ち帰り練習しました。11月、12月には「よんやく」の松本由紀美氏のリードのもとロールプレイングを全職員を対象に8回に分けて実行しました。全く初めての経験の人が殆どだったのでどうなることかはらはらしましたが皆さん大変積極的にプレイしてくれ、皆のやる気が伝わってきて、うれしく、勇気づけられました。何人かの患者さんからは「会えば先に挨拶してくれる気持ちのよい病院だ」と言われ、確実に効果が出ていると感じました。

何事も続けることに意義がありますので、2年目の今年は昨年勉強したこと地固めをして、あせらずゆっくりと継続して行こうと思っています。よろしくご協力お願いいたします。

